

新しい道を切り拓いた いわての女性たち⑦

～宇宙学の世界から アジア文化交流の架け橋に～
荻田 セキ子

今から約70年前、第二次大戦中、日夜宇宙学の研究に没頭していた女性がいた。荻田セキ子（旧姓 吉田）である。

セキ子は、1924年（大正13）父熊吉と母イマの三女として盛岡にて誕生。本シリーズ④の吉田幾世はセキ子の長姉である。

1939年（昭14）盛岡高等女学校（現盛岡二高）を卒業後、東京の自由学園に進学。探究心旺盛なセキ子は、学園を卒業後、当時、まだ注目されていない宇宙学の理化学研究所、仁科研究室に入った。男性研究員たちは戦争に駆り出され、セキ子は連日遅くまで研究を続けた。

戦後、1946年（昭21）名古屋大学理学教室の助手を経て1956年（昭31）渡米、アイオワ大学で地球を取り巻く放射線について研究。

戦時中の日本には英語教育がなかったため学問上の英語力を身につけるには、並大抵ではない努力が必要だった。しかし、セキ子の新しいことへの探究心が、それを可能にした。

1960年（昭35）セキ子は、理学博士となった。

セキ子は、宇宙学を研究する一方で、仲間たちとの交流も深めていた。この若者たちとの交流が、後にセキ子の生き方を大きく方向転換していく。帰国後、1965年（昭40）セキ子、荻田直史と結婚、荻田セキ子となる。

1968年（昭43）渡米中の交流をきっかけに東京YWCA「留学生の母親」運動に加わり、アジアの多くの留学生の母となって支援を続けた。

その後、1974年（昭49）アジア学生文化協会相談室が設置され、セキ子はカウンセラーとして留学生の声に耳を傾けた。その中で、彼らの抱える現状と問題点をあぶりだし、後に『文化「鎖国」ニッポンの留学生～交流の現場から見た実情と問題点～』と題して本を出版（1986）。

1983年（昭58）協会付属日本語学校の校長となる。

「若い人には、感受性豊かに、純粋な目で物事を見極める目を養ってほしい」との願いを込めたセキ子の活動は、国際交流の架け橋となっていった。

1988年（昭63）7月 膵臓がんのため、セキ子64歳で逝去。

セキ子の死後、300頁におよぶ「荻田セキ子を偲んで」が出版された。そこには多くの留学生や運動に関わった人々のセキ子への思いが綴られている。（1993年発行）

【参考図書】・「岩手の婦人」 岩手県（発行）1981
 ・「生きて輝いて～変動期を生き抜いた女たちの記録～」
 熊谷 佳枝（著）1998

● 女性相談（本館）

相談受付電話 **019-604-3304**

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。

- 相談には電話相談と面接相談があり、予約が必要です。
- 相談は無料です。秘密はかたく守ります。
- 相談開設時間

	10:00	17:00	20:00
月	10:00 ~ 17:00		
火	10:00 ~ 17:00		
水	10:00 ~ 20:00		
木	10:00 ~ 20:00		
金	10:00 ~ 17:00		

（第2火曜日、年末年始、祝日は休み）



もりおか女性センター

管理・運営：特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて

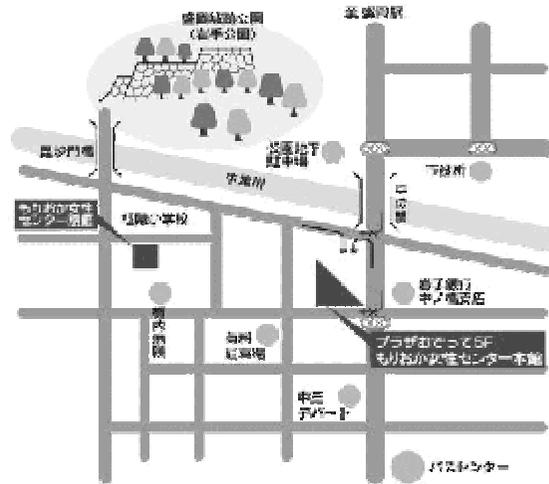
もりおか女性センターは、女と男がともに参画する社会をめざして女性をとりまく様々な問題を考え、解決するための施設です。男女を問わず、すべての市民が気軽に利用できます。

■ 本館

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10プラザおでって5階
 電話番号 (019) 604-3303 FAX 050-2013-4750
 開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:30（土日祝17:00まで）
 休館日 毎月第2火曜日、年末年始

■ 別館

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町2-8
 電話番号 (019) 624-3583 (FAX兼)
 開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:00
 休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始



（バス）
 盛岡駅より茶畑・バスセンター方面行き バスセンター前下車
 本館まで徒歩3分、別館まで徒歩8分

※女性センターには、本館・別館ともに専用の駐車場はありません。
 おでって地下駐車場や近隣の有料駐車場をご利用ください。

ホームページ <http://mjc.sankaku-npo.jp>

あともがき

◆もりおか女性センター本館子どもの部屋には、職員の手作りによる動物たちが壁一面に笑顔を咲かせています。
 どうぞお子さんと一緒にくつろぎにいらして下さい（S）

◆先日、別館の市立図書館貸出図書入替の選書に行ってきました。選書が終わったバスの待ち時間、高松の池の白鳥をひと目見ようと池に近づくと、氷上で餌を求めてにじり寄ってくる白鳥の群れに思わずたじろいでしまいました。
 今年度最後のニュースレターとなりました。次年度もまた引き続きニュースレターをご愛読いただければ幸いです。（Y）

ひとひと
 一女と男、ともに参画する社会をめざして

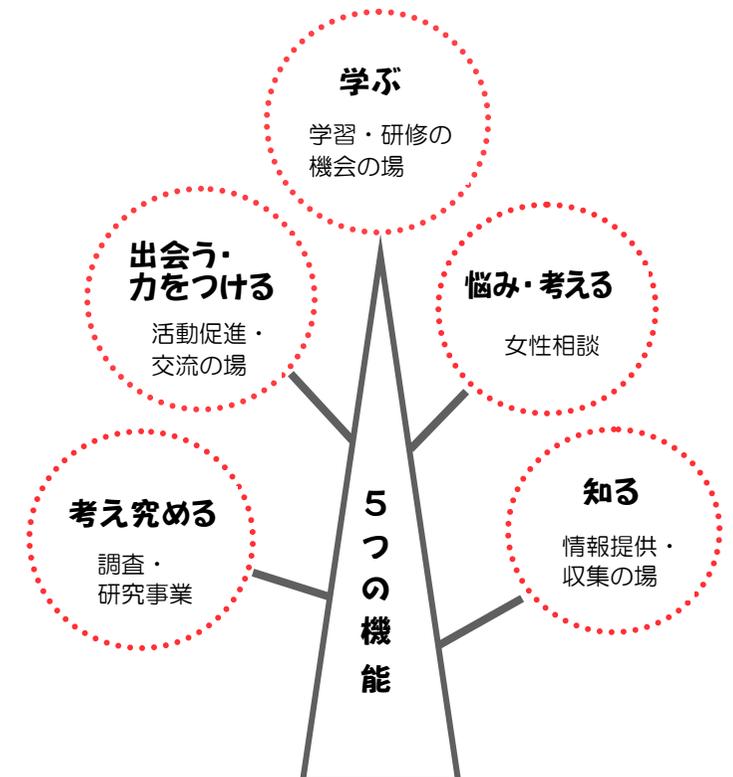
もりおか女性センター

2012年
 3月
 No. **35**

ニュースレター

内容

- ◎ 平成23年度 開催講座の報告
- ◎ 新しい道を切り拓いた いわての女性たち⑦「荻田 セキ子」



平成23年度事業テーマ
 『女性センターでふみ出す私の一歩
 ～つながる、ひろがる、変える！～』

発行：もりおか女性センター

平成 23 年度 開催講座の報告

もりおか女性センターでは、『女性センターでふみ出す私の一步 ～つながる、ひろがる、変える！～』をテーマに様々な講座を行いました。

「思いを力に変える、 女性のためのエンパワーメント塾」

【連続講座・フォローアップ講座・公開講座】

この講座は、女性たちがこれまで培ってきた学びや地域活動等を「社会活動キャリア」と位置付け、思いを力に変えて実践活動につなげることを目指し、平成 21 年度から開講し 3 期目の講座が終了しました。

一人ひとりの持っている「力」を社会的な活動に活かすために、講義とグループワークを行い、「実践につなげる力」を育ててきました。また、担当グループによる講座運営等にも携わっていただき、仲間とのネットワークも広がりました。

フォローアップ講座と公開講座も開催し、多くの方に受講いただきました。

今年度は「東日本大震災」を受け、受講生のみなさんが「人とのつながり」や「自分自身にできることは何か」と問いかけながら学ばれていたように感じました。この講座での学びを活かし、次の一歩へとつなげていただきたいと思います。

受講生からは、「全 8 回の講座は、見るもの聞くもの全てが新鮮でワクワクしました。毎回、自分自身が変わっていったように感じました」「“当たり前”と思っていたことに、疑問を持つことができるようになりました。そして、そこで終わらせず自分はどのようにのか考えられるようになりました」「公開講座で希望の回を受講でき良かったです」等の声が寄せられました。

「みんなのおしゃべりルーム ～離婚について話してみませんか～」



年代別に 8 月と 2 月に 2 回開催しました。安心できるスペースで自分の事を語ったり、法的な情報を得ながら、次のステップの足がかりをつかんでいただきました。

参加者は、「話をするだけで何かプラスになるのだろうか」と疑問を持っていたが、気持ちがすっきりして元気になりました。参加して本当に良かった！」と感想をお話しされました。

●『起業応援ルーム芽でるネット』応援セミナー！●

「女性起業芽でる塾」 「ネットショップ開店準備講座」 「IT活用、パソコンミニセミナー」



起業応援ルーム芽でるネットでは、女性のための起業講座やパソコン活用講座を定期的実施しています。今年度は、例年開催している「女性起業芽でる塾」や「ネットショップ開店準備講座」のほか、8 月から 2 月まで定期的に少人数制のパソコンミニセミナーを実施し、名刺やチラシ、ツイッター、ブログ作りを体験していただきました。起業を目指す女性たちの夢がかたちになるように応援しています！



男性応援講座

「いきいき、はつらつ！男の生活力 UP 塾」

「生活力 UP」のための 5 つのキーワード（健康・快適・美味しい・楽しい・仲間）を基に、健康と食を通じた生活の楽しみ方を学びました。

1 回目はストレスとの付き合い方やリラックス法についてのお話と簡単なストレッチを体験。2 回目は、2 年前の男性応援講座「弁当男子」から自主グループとして活動している「COO（くー）会」のみなさんにご協力いただき、調理実習（簡単おにぎり）と会食を通じて交流を深めました。

受講生からは、「“生活力 UP”とは、家族にケアしてもらうのではなく自分で自分のことができる、また家族や周りの人のケアができることに気づいた」「この講座を良い機会と捉え、ストレスと上手く付き合っていきたい」「料理も意外に楽しいもんだ！家でも作って食べさせたい」との声が寄せられました。



「私たちの復興会議

～つながる、ひろがる、かえる！～

今年度の「女性と災害」は、1 月に仙台市の女性市長 奥山恵子さんをお迎えして基調講演とシンポジウムを開催しました。

基調講演では、奥山市長の復興に賭ける熱い思いが伝わって来ました。3 年前の岩手・宮城内陸地震を教訓に仙台の宮城野地区で「女性たちの防災宣言」が出され、女性の視点からの地域防災が取組まれていました。3.11 発災後は、この記憶が醒めないうちにと「3.11 を語る女性の集い」での意見交換をもとに復興に向けた取組みが行われているとお聞きし、まさに女性たちの活動が復興の大きな力になっていることを感じました。

また、シンポジウムでは実際に支援活動をしている 3 人の女性より、それぞれの支援の取組み等についてお話を伺うことができました。



がんばっているあなたのための

「女性のこころとからだを考える講座」

女性が抱えるさまざまな心と体の問題について考え、学びました。女性の健康を考えるうえで「性差医療」の取り組みを実施している女性外来担当医師による 2 回の講話をいただき、女性のライフスタイルの変化に伴いストレス等、体に与える影響が大きいことをあらためて実感しました。

第 3 回では、自分の体を知り健やかな生活を送るために自分でできる簡単な体のケアにもトライしました。講師が受講生一人ひとりと丁寧に向き合ってくれたことで、みなさんの心と体が自然にほぐれていく様子が伝わってきました。

講座終了後、もっと学びたいという声をたくさんいただきました。



●●● 就労支援講座 ●●●

「シングルマザー就労応援パソコン入門講座」I、II 「パソコン資格取得講座」

今年度も母子家庭のお母さんの就労支援として、パソコン入門講座と資格取得講座を開催しました。入門編は電源を入れるところからスタートする全くの初心者を対象にした内容で、資格取得講座は「マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 2007」の資格取得を目指し、難しい内容となっていました。今年は震災で内陸に避難してきた方々も参加し、みなさん限られた時間内でパソコン技術を習得しようと真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

受講生からは、「託児をしていただけるというのがとても助かった。何かを勉強したくても子どもをみてくれる人がいない状況だと、諦めるしかないなと思っていた」という声もありました。

「本気で働きたいあなたのための再就職応援講座」

40 代 50 代の女性対象の再就職応援講座を開催しました。再就職につなげるための講座として、前半は子育てや市民活動を含む総合キャリアから自分の強みを活かした職務経歴書づくりを、また後半は参加者の皆さんに面接体験をしていただき、講師から面接時のポイントを一人ひとりにアドバイスをもらいました。回を重ねるごとに皆さんの声や表情が活気を帯び、全 5 回名残り惜しいなか講座は終了しました。

受講生の皆さんは現在、自主グループをたち上げ交流を深めています。



「女子学生のためのシューカツ準備応援塾」

これから就職活動をしようとしている女子学生を対象に、就職活動の準備を支援するための講座を 2 月に開催しました。

初回には女性の働く現状についての講義と、「女性が未来を選択するとき。」というテーマで、女性が様々な人生の岐路に立った時に何を選択し、なぜそれを選んだかについて先輩にお話いただく座談会を開催しました。座談会では、築いてきたキャリアや家庭について先輩たちが本音でお話しくださり、「同じ女性の立場としての意見で役にたった」「普段学校にいただけでは分からない事も、たくさん知ることができた」などの感想が受講生から寄せられ、女性センターならではの講座となりました。

また、今の自分と向き合うための自己 PR 体験では、発表の回を重ねることに自信を持って話をする頼もしい姿を見ることができました。大学や専門学校からご参加いただき、学校を超えた出会いや社会人の先輩女性との交流の場となりました。これからも学生のみなさんに女性センターを活用していただきたいと思います。



《平成 24 年度 もりおか女性センター事業のお知らせ》

事業テーマ「学び、つながり、切り拓く！！」

事業の予定	◆男女共同参画週間もりおか展	6/15(金)～21(木)
	◆女性センターフェスティバル	10/5(金)～7(日)
	◆女性に対する暴力をなくす運動	11/9(金)～15(木)